



2025年（令和7年）7月31日
第4回藤沢市都市マスタープラン策定協議会
資料1

1 前回策定協議会の振り返り

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
資料1 市民アンケート	平日の時間にサーフィン、スポーツ、BBQ等を楽しめることも藤沢の魅力では。	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレスト会議では、スポーツの場や体を動かせる場のニーズが確認されたのでビジョン等に描画の追加を検討します。
資料1 市民アンケート	アンケートから見える課題は何か？南と北で魅力や生活の充実度が違うという結果は、藤沢の都市構造の課題の一つであり、どのように考えていくか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 見える課題は地区ごとに差異があり、住み心地の良さの維持・発展とともに、地区の状況に応じた利便性の向上や、防災性の強化、コミュニティ活動の充実が求められており、地区プランで各地区の現況や特性に沿ったまちづくりの方針を記載しています。
はじめに 社会展望	人やライフスタイルの中で高齢化について触れているが、高齢化のマイナス的な要素の記載が多い。アクティブシニアといった元気で活動的なシニアの存在とその活動を支える都市を示すことが重要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会展望の「人やライフスタイル」に追記しました。 ● また「技術革新等による暮らしや社会の影響」の中でも、間接的にはありますが、社会展望の中で医療分野の技術革新と絡めて、健康寿命が延びる可能性に触れています。
ビジョン編	市長のインクルーシブ、サステナブル、スマートという3つのスローガンが入っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ● このワード自体は使っていませんが、考え方はビジョンや都市づくりの方針に反映しています。

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
ビジョン編 基本理念	基本理念には「働く・住む・憩う」というキーワードが読み取れ、都市ビジョンには「自立」が謳われている。自立型の都市では「働く・住む・憩う」の要素は必須であり、基本理念と都市ビジョンの相互関係性が理解できるが、「学ぶ」という要素が隠れてしまっている。SFCもあり、高齢化社会を踏まえ学び直しに観点からも、「学ぶ」という要素の扱いを検討したほうが良い。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学び」の要素はブレスト会議でも指摘されており、都市づくりの基本方針「+a. ひとつつながるまちづくり」の中に記載しました。
ビジョン編 都市ビジョン	「自立する」の意味をどう整理するか。ネットワークには市内、市外両方あるのが分かりにくいのでは。「自立＝機能があること＋個性・実存的なものがあること」ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市ビジョンの説明を再考しました。市内と広域という観点が両方含まれることについては、記載の仕方により、イメージしやすいよう工夫をしました。
ビジョン編 都市構造	都市構造5つのレイヤーについて、「交通体系」を「都市基盤」に置き換えて、自然空間⇒都市基盤⇒土地利用⇒拠点と説明するのが分かりやすいのでは。	<ul style="list-style-type: none"> ● 検討の結果、「拠点」「交通体系」「自然空間体系」「市街地の構成」としました。既に市街化が相当進んでいる状況を鑑み、市街地の上にネットワークとして自然空間体系があり、その上に、交通体系、拠点があると整理しています。
ビジョン編 都市構造	身近な拠点は何を指すのか。地区拠点との違いは何か。また、今後図面に示すか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な拠点、高齢者、子育て世代などが利用する市民の家や、その他活動団体や民間が地域のニーズに応じて創出する交流の場などを想定しており、構造として図化しない考えです。

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
ビジョン編 都市構造	町内会が衰退の傾向にある。町内の人へのサポートをしようとしているが、市民が自ら場づくりすることに対するサポートも必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が自分でつくる身近な場が増えるのは望ましく、それが進むようにサポートする考え方をプロセス編で示しています。
ビジョン編 都市構造	ネットワークではないインフラも含め、その老朽化に対して将来都市構造の部分でも答えていく必要があるのでは。	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来都市構造の市街地の構成の前文の中で、各種ライフラインへの老朽化への対応について記載しました。
ビジョン編 将来フレーム	土地利用方針、自然的土地利用の保全方針を打ち出すことを提案したい。人口減少後に自然を増やしていくという主旨である。	<ul style="list-style-type: none"> ● ご指摘を踏まえ、将来フレームに記載しました。
ビジョン編 将来フレーム	交流人口が重要。観光地としての特徴は日常的に人が遊びにくることが魅力。そういう方針を加えてはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ● プラン編の都市づくりの方針2の6)において、資源を活かした観光・交流の充実や回遊ネットワーク形成、情報発信等について記載しています。
ビジョン編 将来フレーム	生物多様性30by30に藤沢がどのような貢献をするのか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性の所管課とも調整の上、藤沢市で同様の目標値を掲げて達成をめざすのは難しいと考え、フレーム等への記載は行わないものとしていますが、都市マスタープランや分野別計画に紐づく施策を通して、総体としての目標達成に寄与して参りたいと考えています。

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
プラン編	<p>住みよさの方針で、拠点やケアの文言が出てくるがどう具体化されるかが読み取れない。生活レベルの話と俯瞰した話が混在して読みにくく、都市ビジョンから都市プランが繋がっていないように見える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の方針に紐づく取組だけでは実現が難しいため、+αの方針に示す多主体・他分野連携を推進して実現をめざし、その進め方をプロセス編で記載しています。 ● スケールの混在については、各編における記載の仕方工夫してまいりたいと考えています。
プラン編	<p>場のビジョンがプラン編でどう生きるか。プラン編に場のビジョンの絵が入るのが分かりやすいのではないか。 場のビジョンはいいイメージだが、現実（自転車問題など）との間をつなぐ提案があってもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民とのビジョンの共有と協働により実現する姿の可視化を目的にビジョンを設定しました。 ● 都市づくりの方針に示す施策を講じること、プロセス編「1.1）多様な主体のまちづくりの実現」に示す活動の支援や多様な主体・分野の連携により実現をめざします。 ● これらと紐づくように、ビジョンの絵の使い方を検討します。
プラン編 都市づくり方針 1	<p>身近な拠点を「配置」するのは計画的な記載で、市民等と発掘し居場所化する活動とは違うのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な拠点を「配置」という表現は行わず、ニーズに応じて、住民や団体等が主体となって創出するものという考え方を将来都市構造に記載しています。

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
<p>プラン編 都市づくり方針2</p>	<p>「新しい技術導入や担い手の参入・定着」について、参入が気になる。参入より創出のほうが良いのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 担い手の参入・定着・創出を含めた「確保」に修正しました。新しい技術導入については、方針6の連携と挑戦の方針にも記載しています。
<p>プラン編 都市づくり方針3</p>	<p>雨水の流出抑制も重要なので強化してはどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 方針3の前文に記載しており、それに資する緑地の創出方策を1)を中心に記載しています。
<p>プラン編 都市づくり方針3</p>	<p>農地の位置づけは営農と多面的利用の両面がある。公共空間の緑化・芝生化、菜園化も重要であり、これらはヒートアイランド対策にもつながるため、方針4とも関係する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 方針3の前文において多面的な機能について記載し、4)に身近な生活空間における緑化促進と都市緑化の支援として、広く捉えられるよう記載しました。
<p>プラン編 都市づくり方針4</p>	<p>計画期間内に都市施設のうち道路公園以外の供給処理施設系や市場などで建て替え等が生じての都市計画の変更・決定、もしくは建築基準法51条関連での都市計画変更が生じる可能性があるなら、都市マスタープランで言及した方が良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設更新に伴う都市計画決定・変更を見据え、方針5に記載しました。 ● また、供給処理施設の集約化について近隣市町村と更新・合併の計画を立てており、都市計画変更が生じる可能性を考慮して、方針6に記載しました。
<p>プラン編 都市づくり方針4</p>	<p>気候変動、ヒートアイランドを追加すべきか。クリーングシェルターの確保など。暑熱の問題も重要になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 方針3の前文に、市街地の気温上昇の緩和や、市街地内の緑化の推進による快適な緑空間の創出等を記載しました。

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
<p>プラン編 都市づくり方針5</p>	<p>方針5もウォーカブルなまちづくりの記載があるが、方針1が良いのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体としてのウォーカブルなまちづくりは、都市拠点などにおける推進を方針5の3)で記載し、身近な地域においては、方針1の前文に出歩きたくなる環境について記載し、1)に示す地域の活動状況に応じたきめ細かなまちづくり・場づくりの支援により推進を図ります。
<p>プラン編 都市づくり方針5</p>	<p>「公共施設への負荷を考慮した適正規模の住宅立地の検討」時間軸で考えて必要なのか。持続可能な住宅供給のあり方を考えるという主旨にすべきであり、方針5の施策なのかも検討が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジョン編、都市構造及び人口フレームの中で人口動向の地区毎の違いを踏まえた記載と絡めて、考えを記載しました。
<p>プラン編 都市づくり方針6</p>	<p>連携と挑戦の都市づくりにおいて、多様な交通手段間の連携充実という記載がある。そのことを踏まえると、モビリティハブについても記載したほうが良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● モビリティハブについては広義と狭義の捉え方が存在するため、分野別計画との整合を確認し、記載の仕方を検討します。
<p>プロセス編</p>	<p>場づくりのプロセスは、具体的にこれまでとどう変わるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの計画では「場づくり」という概念がありませんでしたが、今回の改定で市民主体に必要な場をつくるという考え方を入れました。プロセス編にプロセスや支援策を示しています。

前回策定協議会の振り返り

課題項目	意見	考え方
プロセス編	市民のニーズがある場についての場づくりのイメージは分かるが、インフラに直結（交通ハブなど）するものも同じ扱いかなのか。	<ul style="list-style-type: none">● 市民ニーズがある場づくりは主にプロセス編の1で示し、拠点や広場空間や道路空間などのインフラに関連する場はプロセス編の2に示しています。● ビジョン編においては双方の場を示しています。
プロセス編	今回の改定に向けた取組等を広く市民に理解してもらうために、シンポジウムを開催するなど検討して貰いたい。	<ul style="list-style-type: none">● 情報発信の一環として、オープンハウスやフォーラムを検討しています。
プロセス編	かながわのみちづくり計画を来年改定し、幹線道路整備の優先順位検討、既存道路の舗装改善、修繕計画について検討しているので、都市マスと連動していきたい。	<ul style="list-style-type: none">● 神奈川県都市計画課を中心に、適宜、情報共有をさせていただき、引き続き整合を図ってまいりたいと考えています。



2 市民等の意見について

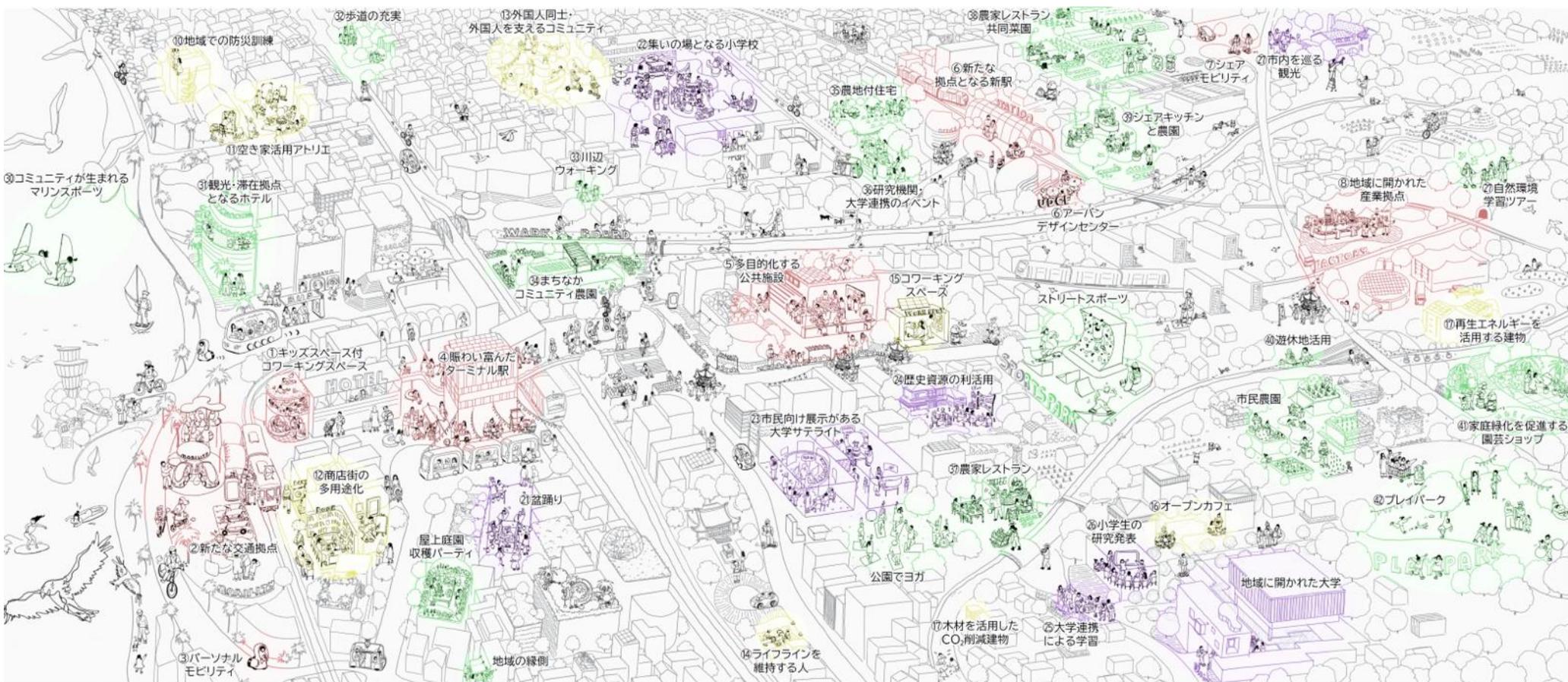
(1) 第2回ブレスト会議

④意見概要

場のビジョンのイラストを提示し、以下の2つのテーマについて討議を行った。

テーマ1：場のビジョン案は藤沢で望む未来か？

テーマ2：「場」を実現するために誰がどう協力・活動するのがよいか？



ブレスト会議で示した場のビジョン（都市の中でめざす多様な活動の場の様子）

(1) 第2回ブレスト会議

テーマ1 どんな「場のビジョン」が必要か？

- 立地特性毎に必要な+特に重要な場は数多く抽出。
- ターミナル駅のような全市民が使う場の充実を求める声もある一方で、既存の空間や施設の用途を転換する前提の場も多い
- 農園や農地付き住宅、外国人、キッズスペースなど、利用者像やライフスタイルからの出てくる場も多い。
- 大学や小学校などの「学び」の場や、歴史資源の利活用や祭りなどの文化継承の場も抽出。



イラストから抜けている場やポイントは？

<ターゲット>

- 高齢者
- 女性とファミリー・子ども
- 多世代・多様な人
- 文化志向・学びたい人
- 外国人

<場の性格>

- 開かれた場
- 学びの場
- 魅力伝達の場
- 繋がりをつくる場
- 活動が見える場
- 多文化共生の場

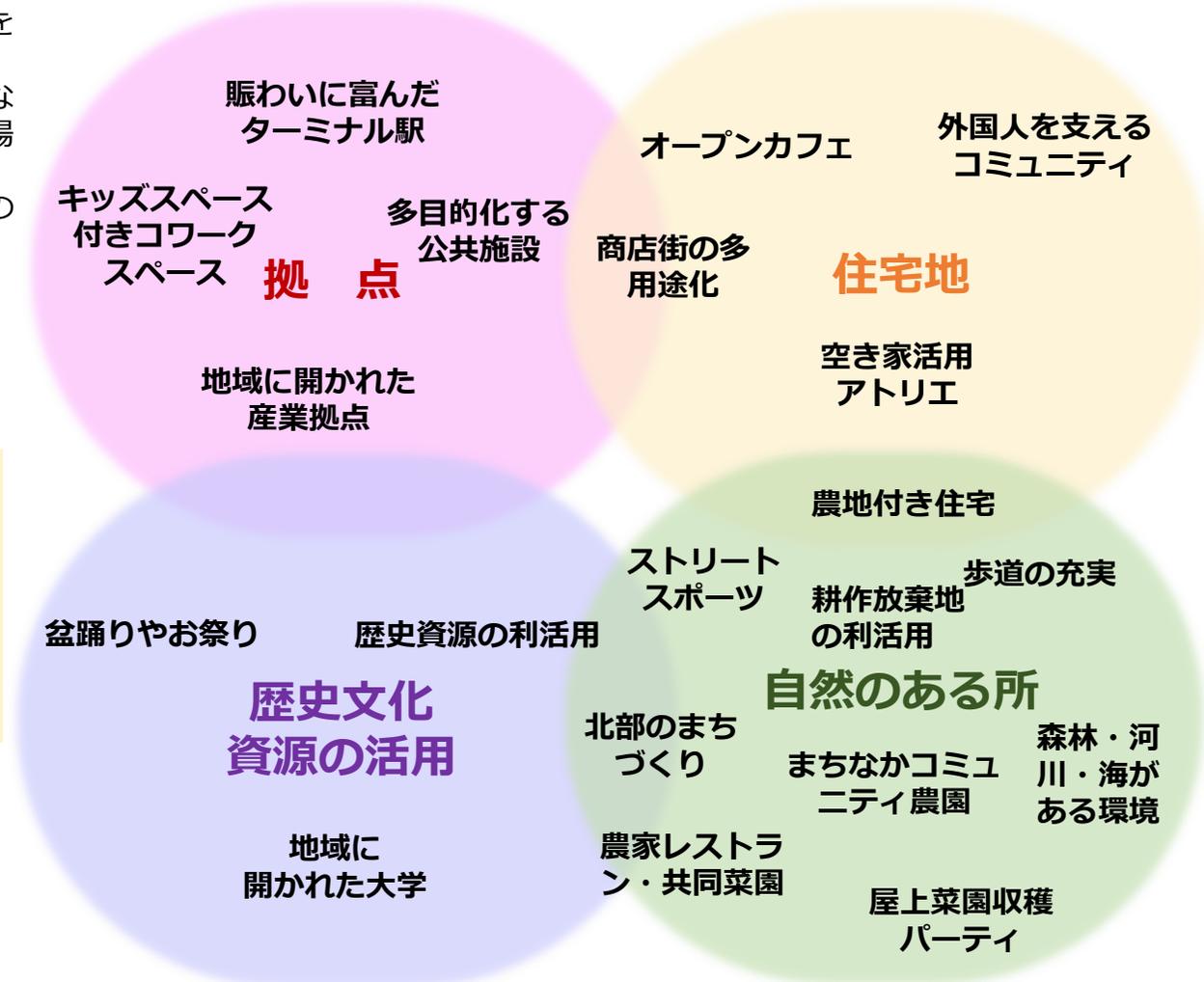
<機能例>

- まちごとホテル
- まちごと保育
- 演劇場・美術館
- 民間保育施設
- 森や河川活用
- 新モビリティの拠点

<テーマ・エリア例>

- スポーツ・文化活動の場
- 北部地域全体
- 体を使って遊ぶ場
- 生産する場

<投票された中で特に重要と考えられた場・後半の議論で取り上げられた場>



(1) 第2回ブレスト会議

テーマ2 「場」を実現するためにはどうするか？

実現するためのアイデア

- まず思いを共有する場をつくり、プレイヤーを確保し、実験等を通じて事業の持続性を確認することが必要。
- 多くの人の参加を得るための工夫も必要であり、実現のための支援や後押しの仕組みも必要とされた。

共通の「思い」をつくる

- 人と人の接点づくり（コミュニケーションの場づくり）
- ビジョンづくり
- 場ではなく「コト」づくりからスタート

プレイヤーの確保

- やりたいを実現するルールづくり
- 企業誘致・スタートアップ支援
- アーティスト・アスリートの参加要請

利用と参加の促進

- 「学び」の要素を加える（自然環境など）
- 観光客・外国人が利用しやすい雰囲気づくり
- 回遊のためのモビリティ確保
- 暑さを緩和する環境整備

実現性の担保

- サウンディングや社会実験
- 事業採算の確認
- 皆で出資する仕組み
- 施設維持のための支援制度（歴史資源など）
- 保存活用事業のビジネス化

支援・後押しの仕組み

- 公共施設利用ルールの柔軟化
- 利用（用途）の規制緩和
- チャレンジの支援
- 民間利用に関する市の後押し（公認等）
- 行政・NPOによる情報発信
- 多言語サポート（発信場面・実施場面）

ブレスト結果の反映の考え方

- 求められる場の性格と、重要なターゲット、実現のためのアイデアを踏まえて、以下の事項について場のビジョンとプロセス編への反映を検討する。

場のビジョンへの反映検討

- ① まちなかで様々な保育が実施されている様子
- ② 高齢者が様々な場や目的で交流している様子
- ③ ギャラリーなどアートに触れる機会がある様子
- ④ 市民農園の新しい形として滞在型で過ごしている様子
- ⑤ 屋外で音楽や芸術などの交流の様子
- ⑥ ビジネスを創出する拠点のある様子

プロセス編への反映検討

- ① 情報提供関連
 - 情報発信・様々な言語サポート
- ② 合意形成関連
 - 協議会、見学会等の会合の開催・支援
- ③ 規制緩和やルール関連
 - 施設等を利用する際の市の後援や承認
 - 公共空間利用ルールの検討や緩和
- ④ 担い手や実行段階
 - スタートアップ起業誘致
 - 社会実験などへ試行に関する支援

(2) 来訪者アンケート結果概要

①実施概要

1) 調査目的

- 都市マスタープラン改定にあたり、藤沢市への来訪実態（来訪・居留意向）を把握する

2) 調査対象

- 市外在住の15歳以上で藤沢市への来訪経験がある人

3) 調査方法

- インターネット調査会社のモニター登録者のうち、居住地情報と藤沢市の来訪経験等に関する質問により、回答件数が400件になるまで回答を収集

4) 調査実施期間

- 5月16日～19日

5) 回収数

- 対象者の抽出段階 719件
- 本調査（来訪経験あり） 400件

● アンケートの設問

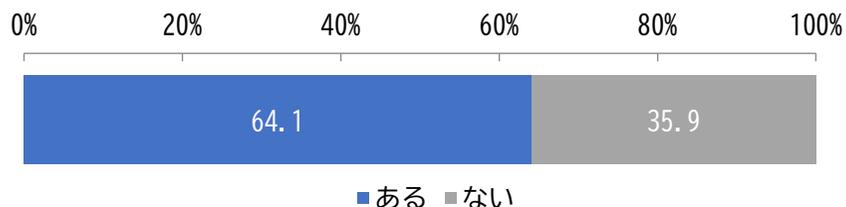
	調査項目	各問を聞く意味／狙い
1.対象者の抽出	居住地	回答者の居住地の把握
	藤沢市の訪問経験	対象者の抽出、藤沢市への来訪経験がある人の割合の把握
2.藤沢市の来訪実態	来訪場所	これまでの藤沢市内の来訪場所（拠点等）の把握
	来訪目的	観光、通勤、通学、買物、その他の目的の把握
	直近の来訪時期	直近の来訪時期の把握
	直近の来訪目的	直近の来訪の目的、場所、滞在時間等の把握
	直近の来訪場所	
直近の滞在時間		
3.藤沢市の来訪・居住ニーズ	再訪意向	来訪ニーズの把握
	再訪意向の理由	来訪したい場合の行きたい場所ややりたいこと等の魅力資源の把握、来訪したくない場合の理由の把握
	居留意向	居住ニーズの把握
	将来のあり方	暮らす場所として重視することの把握、居住ニーズの有無による違いの分析

(2) 来訪者アンケート結果概要

② 結果概要

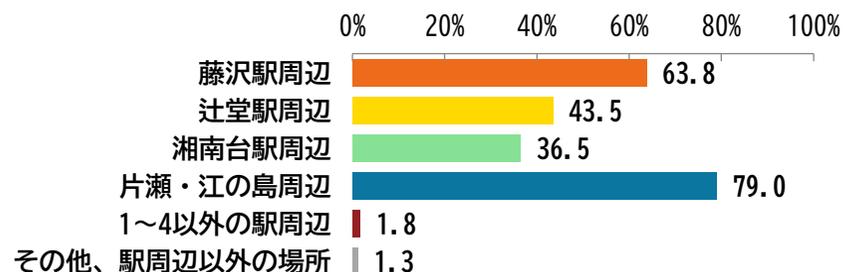
藤沢市の訪問経験 (p13)

藤沢市に訪れたことがありますか。

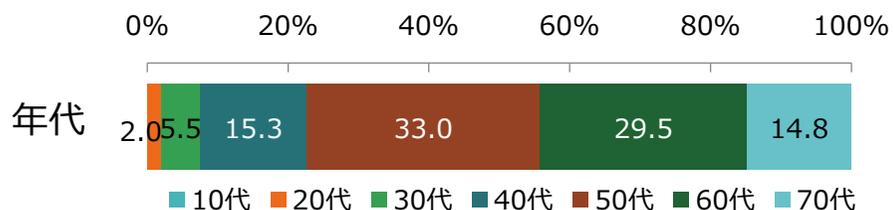
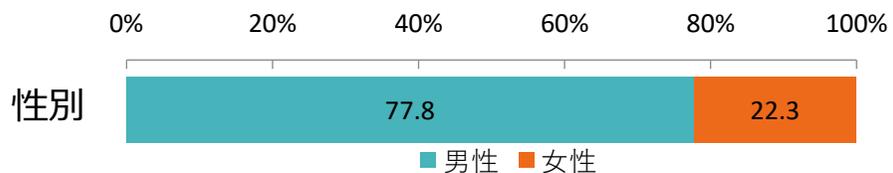


これまでの来訪場所 (p18)

藤沢市のどこに訪れたことがありますか。

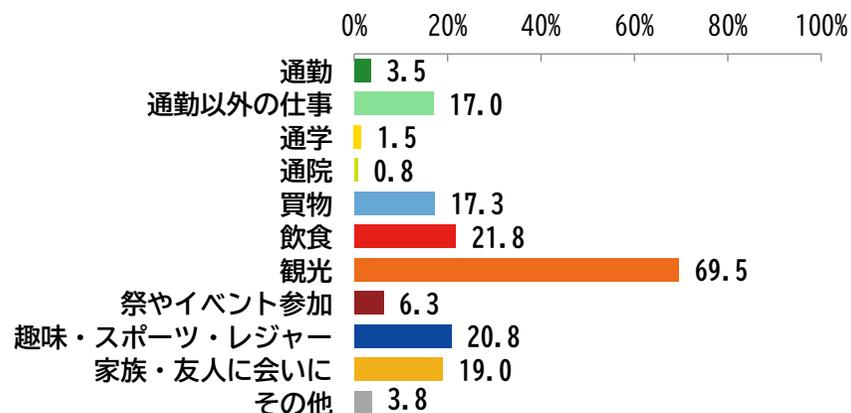


訪問経験がある回答者の属性 (p17)



これまでの来訪目的 (p20)

どのような目的で来たことがありますか



(2) 来訪者アンケート結果概要

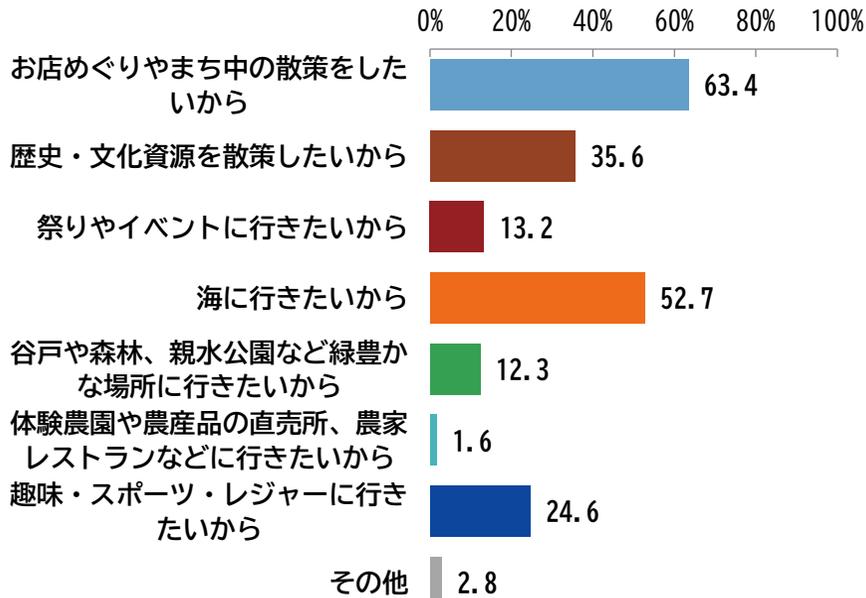
観光での再来訪の意向 (p36)

通勤や通学、通勤などの用事以外で、藤沢市にまた訪れたいと思いますか。



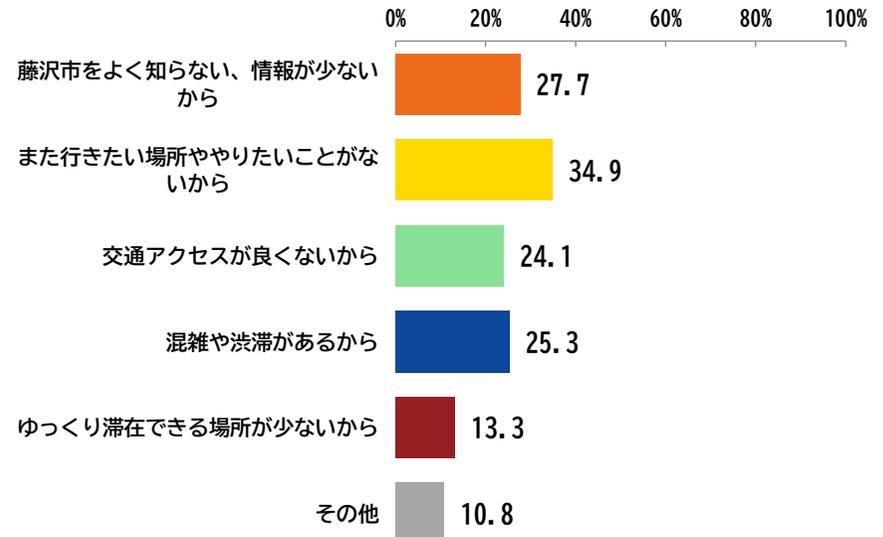
また訪れたいと思う理由 (p38)

また訪れたいと思う理由をお答えください。



また訪れたいと思わない理由 (p40)

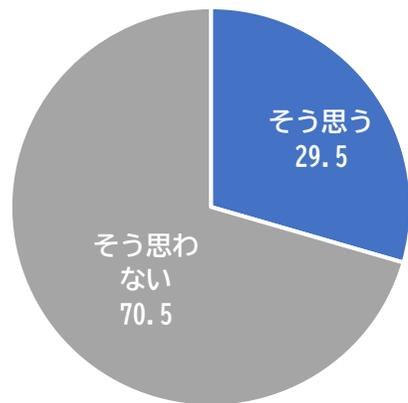
また訪れたいと思わない理由をお答えください。



(2) 来訪者アンケート結果概要

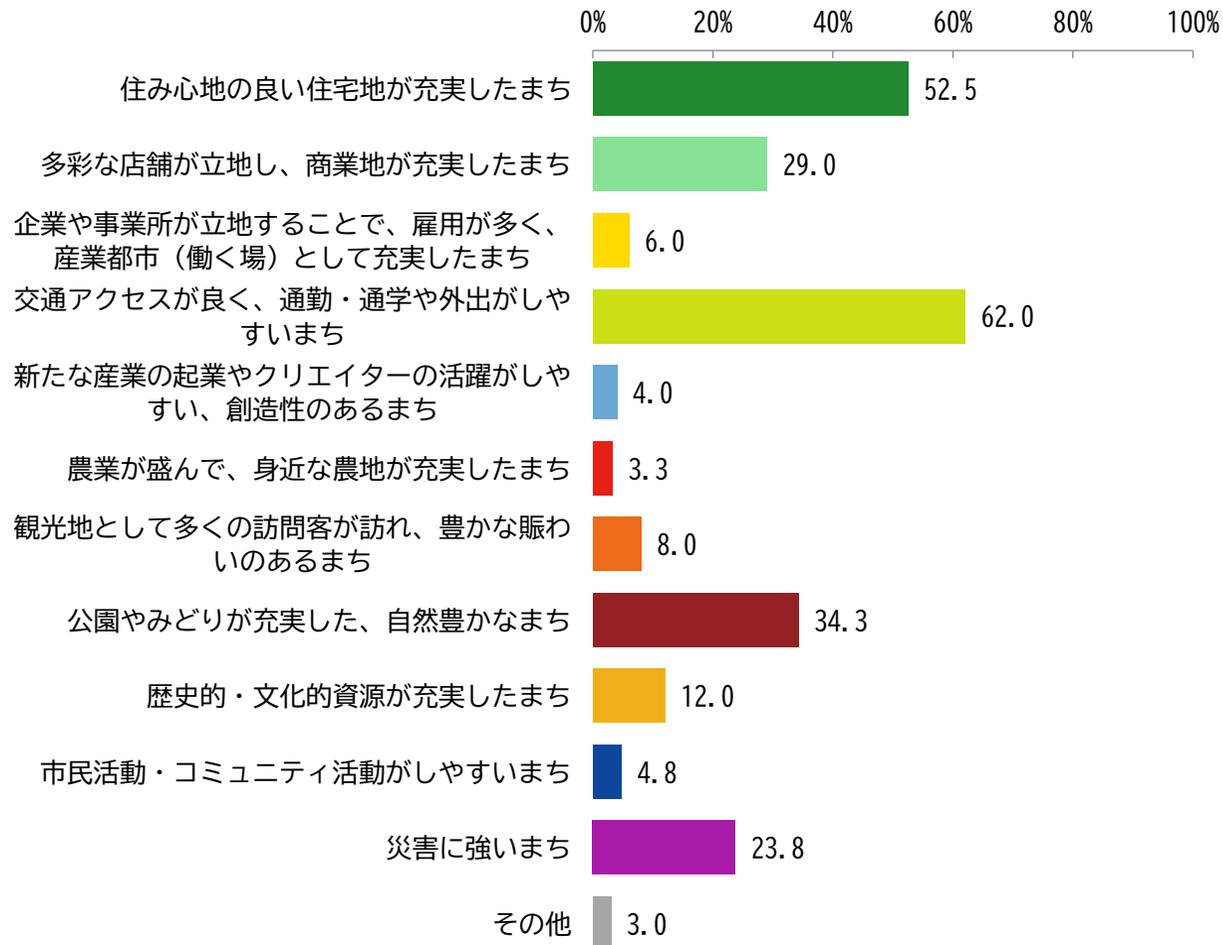
藤沢市への居留意向 (p42)

藤沢市に住んでみたいと思いますか。



暮らす場所として重視すること※ (p44)

住み、暮らす場所としてどのような街であることを重視しますか。



※市民アンケートにおいて市民向けに質問した「藤沢市の将来のあり方」と同じ選択肢とした。藤沢市を詳しく知らない場合に「藤沢市の将来のあり方」を回答するのは難しいため、重視すること3つまで選択してもらい、居留意向との関係を分析した。

(2) 来訪者アンケート結果概要

藤沢市への来訪実態

① 来訪場所

- 「**片瀬・江の島周辺**」が最多で、次いで「藤沢駅周辺」、「辻堂駅周辺」、「湘南台駅周辺」の順に多く、都市拠点以外への来訪は少ない

② 来訪目的

- 「**観光**」が突出して多く、次いで「飲食」、「趣味・スポーツ・レジャー」、「家族・友人に会いに」の順に多い
- 直近の来訪では、「**観光**」が突出して高く、次いで「家族・友人に会いに」、「通勤以外の仕事」の順に多い

③ 滞在時間 (p33)

- 直近の滞在では、**回答者の過半が半日以下**であり、1日(日帰り)の滞在が3割弱

直近の来訪目的×来訪場所

- 観光やレジャーでは「片瀬・江の島周辺」が最多
- 通勤・通学や飲食では「藤沢駅周辺」が最多
- 買物では「辻堂駅周辺」が最多

来訪・居住ニーズ

① 観光での再来訪の意向

- 約**8割がまた訪れたい**と回答

② 再来訪したい理由

- 「**お店めぐりやまち中の散策をしたいから**」が最も多く、次いで「海に行きたいから」、「歴史・文化資源を散策したいから」、「趣味・スポーツ・レジャーに行きたいから」の順に多く、**地域資源の活用や散策環境が重要**。

③ 再来訪したいと思わない理由

- 「**また行きたい場所ややりたいことがないから**」が最も多く、「藤沢市をよく知らない、情報が少ないから」、「混雑や渋滞があるから」、「交通アクセスが良くないから」順に多く、**魅力資源の情報発信が重要**。

④ 居住意向

- 約**7割が住んでみたいと思わない**と回答

⑤ 住み、暮らす場所で重視すること

- 「**交通アクセスが良く、通勤・通学や外出がしやすいまち**」と「**住み心地の良い住宅地が充実したまち**」が特に多い
- ④で藤沢市に**住んでみたいと思う人は、「住み心地の良い住宅地が充実したまち」が最多**で、公園・緑等の自然の豊かさを重視する人の割合も高い。(p47)